

# キッズ ふくしま インたがだ

第15号

2022年10月1日

(発行)

キッズふくしまインたがだ実行委員会  
(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<https://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



池の平青少幼年センターでの集合写真

## ※ 参加者全員のPCR検査を実施し陰性を確認しました

実行委員長あいさつ

高田教区第一組 徳正寺 繁原 立

しげはら たかし

新型コロナウイルスが出てきて二年半という月日が経った。これまで私たちの生活基盤には無かった「マスク着用」「アルコール消毒」「密の回避」など様々な新ルールが出来た。これによって、マスクを着用してない人や他県への仕事や遊びに行く人たちへの批判や非難などが加速をした。こういった行動は今初めてなのか考えてみるとそうではない。十一年前の原発事故により、福島の人たちは「マスク着用」と「線量計を持つ」ということが課せられた。福島から避難した人たちの車や本人に対しても冷やかかな態度を取る人たちがたくさんいた。私たち人間は同じことを繰り返してしまう。

この二年半の中で、本来あるべき行事のほとんどが無くなってしまっている。ある人が「子どもの二年間と大人の二年間の価値はだいぶ違いがある。」という話をしていて、確かにそうだと思う。たくさん学び、たくさん遊ぶ。その場を奪い取ってしまっている。そんな中でキッズふくしまの願いは、子どもたちへの「こめんなさい」の気持ちを出発点としている。放射線の低いところで新鮮な空気を吸って、体の中から整えていくということである。震災から月日は経ったが、まだまだ立ち入りのできない場所や線量の高い場所がある。山菜やタケノコなども地の物は未だに口にできない。しかし、いつまでも下を向いていられないし、周りに合わせるために無理をしている人たちがたくさんいるのではないだろうか。そんな人たちにキッズふくしまの活動は寄り添っていきたいし、そこに宗派の願う「児童教化」が成り立っていると私は考える。

7月30日～8月4日  
(5泊6日)



1日目 (7月30日)



この夏も元気な小学生15名が福島県いわき市から新潟へ来てくれました。  
長旅の疲れも見せず、オリエンテーションの後はずっと外の広場で遊びました。



夕食の後はお楽しみ会。ピンポン玉の的当てや段ボールカタピラレースで盛り上がりました。スタッフも一緒に楽しみましたよ。



ペットボトルに  
割りばしを入れる

これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

なお、この広報誌はホームページにPDFデータでアップされていますので、印刷してご利用ください。

ホームページ

<https://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

Facebook

<https://www.facebook.com/kidsfukushima/>

Twitter

<https://www.twitter.com/kidsfukushima/>



# シーサイドパーク名立

2日目 (7月31日)

二日目は池の平青少年センターを離れ、上越市内の観光施設へ訪問しました。高地の妙高池の平と違い、暑い中での日程でしたが、一日楽しく過ごすことができました。



眼下に日本海を望むアスレチック施設で、思いきり外遊びを楽しむ



親鸞聖人ゆかりの寺院で昼食をいただきました



## 光源寺で昼食



「郵便の父」と言われる前島密の偉業について勉強しました



## 前島記念館



# ものづくりワークショップ

3日目 (8月1日)



池の平青少幼年センター設立 50周年記念イベントに向け、「六花のオーナメント」の制作を行い、ガラスに貼り付けて華やかに飾り付けました。



## わじりパンづくり



粉を練って青竹に巻き、直火で豪快に焼いて出来上がり。焦がさないように焼くのが難しかった。



## BBQ



# 花火大会



# なおえつ海水浴場

4日目(8月2日)



この日もセンターを離れてなおえつ海水浴場へ。1日たっぷり海水浴を楽しみました。  
お昼は坊守の皆さん手作りのおにぎりとお豚汁でお腹いっぱいになりました。

## キッズふくしまにお力添えいただきありがとうございます

「キッズふくしま」とは福島第一原発事故を機に始まった、福島県の子どもたちのための保養活動です。現地の声には、「個人宅の放射能除染が行き渡っていない」、「遊び場である公園に連れて行ったり、遊ばせたりする事が不安」などという声が聞かれます。また子どもたちからも「普段遊んでいた空き地は数値高いから遊べない」、「山に入っちゃいけないって言われた」等、大人は不安からのストレスに、子どもたちは遊び場を失うストレスに悩まされる日々が今だに続いています。

「キッズふくしま」は、大人たちが便利という言葉にごまかされて思考を止め、本当の安全を迫及して来なかった事や、原発事故、放射能汚染等の負のバトンを子どもたちに渡さなければならない事に対する「ごめんなさいから始める」活動です。子供たちが感じているストレスの軽減と、受けている内部被ばくの減少を目的として、たとえ数日間という短い期間でも汚染されていない地域で過ごし、思い切り遊んでもらいたいと思っています。ご理解の程宜しくお願い致します。

皆様からのご寄附をお願いします

### - 郵便局からの振込 -

口座記号番号(ゆうちょ銀行)  
00500-1-101787  
口座名 キッズふくしま たかだ

### - 他金融機関からの振込 -

店 番 059(ゆうちょ銀行)  
口座名 キッズふくしま たかだ  
預金種目 当座  
口座番号 0101787

## 5日目(8月3日)



青竹を切って箸と器を制作。出来上がった食器を使って流しそうめんをやりました。青竹の香りとそうめんの冷たさ、最高です！



午後は水遊び。大きな水鉄砲や水風船が飛び交いました。みんなびしょぬれになって遊びました。

## 会計報告

この活動に対し様々な方に御支援を頂きましたことをご報告させていただきます。

- ・宮越彰様
- ・相馬美沙子様
- ・専敬寺様
- ・圓照寺様
- ・第四組お待ち受け法要
- ・善念寺様
- ・高田別院お待ち受け法要
- ・高田教区坊守会様
- ・第四組ジャンベ実行委員会様 ※順不同

通帳残高 1,681,246 円

2022年9月15日現在

この募金はキッズふくしま実行委員会が管理をして、必要があれば実行委員会の決済を経て、キッズふくしま関連事業への補助を行います。今後も高田、新井両別院報恩講や各種行事において募金活動を行う予定です。引き続きご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



最後の夜は班別の寸劇披露です。一緒に活動してきた仲間と作った渾身の劇です。どの班も見ごたえのある楽しい内容でした。スタッフによる「怖い話」にも引き込まれました。



スタッフに別れを告げ、全員元気にふるさといわき市へ戻りました。



## 参加してくれた子どもたちの感想

### キッズふくしまでの

### 夏の思い出

平山 莉子さん

初めて三年生で参加した時は、ドキドキしたけれど、四回目の六年生になった今では、不安などはなくコロナの中、開催連絡の郵便が届くのを楽しみに待っていました。

そして今回は一年生になる弟が参加しました。一緒に遊べるのが楽しみでした。弟はみんなに遊んでもらって、さびしくはなさそうでした。私も妹もうれしかったです。

みんなでパン作りや流しそうめんをしたりと家でできない経験をたくさんしました。私が一番楽しくて思い出に残ったことは、海水浴と壬生の広場での水遊びです。海では、浮き輪によって波に揺られて気持ちよかったです。水遊びは水が冷たくて、とてもビックリしました。でもすずしくなったし楽しかったです。どちらも終わったあとは、みんな日焼けをしていました。

来年のスプリングキャンプにもまた参加して、スタッフさん達やキャンプのお友達と会えるのが今からすごく待ち遠しいです。

### 準備

吉澤 大智さん

僕は、キッズふくしまに行つて準備の大切さを感じた。特に流しそうめんを感じた。なぜなら、竹でお皿とおはしを作ったからだ。お皿がないとそうめんを入れるところがないし、おはしがなければそうめんは食べられない。あと流しそうめんの台やそうめんを食べる参加者十五名分だけでなく、スタッフのみんなの準備がなければできなかったと、僕は思った。

水遊びも、水風船や水鉄砲の準備をしたからこそできたことだし、スタッフの人たちで、どうやるかを決める話し合いがあったからだと思う。見えないところでのスタッフの準備があったから出来たことだし、準備をしたら片付けも忘れずにやった。流しそうめんも水遊びも準備をしたからこそできたと思った。

僕はキッズふくしまを通してあらためて準備の大切さだけではなく、準備をしたら片付けをしないといけないことを学びました。キッズふくしまに行かなくなっても、大人になっても、このことを忘れずに生活したいと思いました。

### キッズふくしまで

### 印象に残ったこと

山内 心結さん

私は、キッズふくしまに参加するのは、今回で三回目です。サマーキャンプに参加するのは、今回で二回目です。今回のサマーキャンプに参加して印象に残ったことは、二つあります。

一つ目は、流しそうめんです。竹でうつわとはしをつくり、それを使ってそうめんを食べました。竹でつくったはしだったので、うまくつかめませんでした。

二つ目は、キッズふくしまを開催した理由をスタッフさんから聞いたときです。私は生まれて間もなかったのですが、震災の記憶がありませんでしたが、当時の福島の子どものために、たくさんの人たちが協力し、助けてくれたことを知り、とてもうれしく思いました。

私がいままで、キッズふくしまに参加して、学んだことがたくさんあります。その知識や経験を今後になかしていきたいです。スタッフのみなさま、楽しい思い出をたくさんつくっていただきありがとうございます。



## 石垣 美枝様

このコロナ禍にキャンプを開催して頂き、ありがとうございます。

六年生の娘は春のキャンプに続き二度目の参加となります。今回は前回ほどの不安もなく、とにかく楽しんで元気に帰ってきて欲しいという気持ちで送り出しました。とは言ってもコロナ禍、熱は出ていないか、迷惑をおかけしてはいないか：など心配は尽きずに日々過ごしていました。しかし娘は満面の笑みでバスを降り、「楽しかった！」「あつという間だった！」「もつと泊まりたかった！」と、その後も早口で楽しかった出来事を話し始めました。特に海水浴、水遊び、アスレチックなどの外での活動は楽しかったそうです。娘は震災、コロナの影響もあり外で遊ぶことが少なく、とても貴重な体験をさせて頂きました。更にお友だちと行動することでもいい思い出となったよ

うです。

震災後、継続していわきの子どもに寄り添ってくださって感謝しています。また今回もスタッフの皆様には大変お世話になりました。コロナや帰りの悪天候など、気苦労が絶えなかったと思います。

安全な活動をサポートして頂きありがとうございます。

## 渡邊 貴子様

息子にとつて小学生生活最後の夏休みとなった今年の夏、キッズふくしまキャンプでたくさんさんの経験をさせて頂きましたありがとうございます。

それはそれは楽しみに、キャンプの日を指折り心待ちにしていた息子は、夏休みの宿題にも早々に取り掛かり、全力で遊んでこようという意気込みすら感じられました。

東日本大震災当時、生後九ヶ月でつかまり立ちすら不安定だった息子も、今では母の身長と変わらない程に体も成長しました。

あれから十一年の歳月が過ぎまし

た。無知であった自分を責め悔やむ気持ちは変わらず、あの時息子を被ばくさせてしまった後悔は、悔やんでも悔やみきれません。今やれる出来る限りのことをしようと、様々な情報を調べ自分なりに勉強し、幼い息子の手を取りいろいろな保養に参加させていただきました。事故当時の記憶は全くない息子は、福島で制限させてしまっていた海水浴や自然とふれあう中で、心身ともに成長し、いつの頃からか一人で参加できるようになりました。

今回のキッズふくしまキャンプでも、沢山自然とふれあい、美味しいお食事にお腹いっぱい満たされ、そしてスタッフの皆様、お友達に囲まれてとても充実した日々を過ごし、身も心も栄養満タンで福島に帰ってきました。帰宅後お土産話をしてくれる活き活きとした表情から、キャンプがどれほど楽しいものであったかと知ることができ、とてもありがたく嬉しく思いました。

昨年十月、仕事の関係で福島第一原発の視察に行く機会がありました。線量計を首から下げ、バスで構内をまわり、所要所で降りて短時間見学する

度、線量計が鳴り響き渡りました。そして原子炉建屋を目の前にして、言葉を失い涙が込み上げてきました。時間の経過と共に、原発事故後の福島の現状もメディアで取り上げられる事も減り、徐々に忘れ去られてしまっている中、まだまだ終息を迎えるまでには長い年月を要すると改めて感じました。そして何より、これから未来のある子どもたちに負の遺産を残してはいけな

いと、現地を見て心から思いました。震災当時から多くの皆様のご支援のおかげで、今私達は日常生活を過ごせています。そしてキッズふくしまキャンプにご支援、ご尽力いただいた皆様のお陰で、息子はこの夏たくさんさんの素敵な思い出を作つて、浅黒く日焼けし、晴れやかな笑顔で福島に帰つてまいりました。大変なご時世ではございますが、これからも長くキッズふくしまキャンプを続けていただけましたらと、心よりお願い申し上げます。キッズふくしまキャンプに携わつてくださった皆様、本当にありがとうございます。